

令和3年度第5回全校集会（2月） 校長講話

こんにちは。早いもので2月も一週間が経ちました。まだまだ寒い日が続きますが、立春が過ぎて暦の上では春になり、少しずつ日も長くなってきて春が近づいてきたことを感じます。2月になっても、新型コロナウイルスに感染する人がなかなか減りません。皆さんも「ウイルスに負けるもんか」という強い気持ちをもって、かからないように気を付けてください。高等部3年生の皆さんは、残り少なくなった本校での生活を大切にしてください。

今日はこの後、児童生徒会や委員会の皆さんの書初め発表と保健委員会の発表動画を視聴します。さて、その書初めですが、ニュースとか新聞で見たことがある人もいるとは思いますが、年に一度、一般的には1月2日に行われる日本の正月行事で、年の初めに筆に墨をつけて文字や絵をかくことを言います。今年一年の目標や願いを書くことが多いですね。また、1月2日に書初めを行うと字が上手になるという言い伝えがあるそうです。ところで書初めはいつごろから始まったと思いますか。書初めの始まりは、今から1200年ほど前の平安時代で、天皇がお住まいになっていた宮中の行事からといわれています。元日の朝に初めて汲んだ若水と呼ばれる水で墨をすって、新年の縁起のよい方角に向かってお祝いの言葉や詩歌を書いたそうです。縁起のよい方角を何というか知っていますか。つい最近、その名前がついた食べ物を食べた人がいるんじゃないですか。校長先生も食いしん坊なので、毎年食べています。そうです、恵方巻の恵方です。この後発表してくれる人たちが、どんな文字を書いてくれたか楽しみです。

校長先生は書初めはしていませんが、今年のご目標としたい四字熟語を選んでみました。最初に学校の目標ですが、この熟語です。「一路順風」（いちろじゅんぷう）と読みます。「一路」は「ひたすら」という意味で、「順風」は「追い風」のことです。船の航行が順調ということから「ものごとが順調に進むこと」を表す熟語です。感染症が流行して思い通りにいかないこともたくさんありますが、みんなが健康で嬉しいことがたくさんある年になるといいなあと思います。そして個人のご目標として選んだのが、この熟語です。最近よく話題になる四字熟語です。「一粒万倍」（いちりゅうまんばい）と読みます。「一粒」は、種もみ、つまりお米のもとになる種のことです。この一粒の種もみから一本の苗ができ、この苗から多いと一千粒のお米がとれるといわれています。つまり、一粒の種もみをまけば、実って万倍は大袈裟ですが、たくさんのお米ができることから、一つのちょっとした善い行いがたくさんのおい結果につながることのたとえです。人に笑顔で挨拶したり、自分にできるお手伝いをすることで、幸せの種がふくらんで周りの人が安らかな気持ちになります。そして、最近よく話題になる「一粒万倍日」は、わずかなものがとても大きく成長する日といわれ、何かを始めるのに一番いい日といわれています。昨年は一粒万倍日に嵐の櫻井翔さんや相葉雅紀さんが結婚を発表されました。ちなみに今週2月10日木曜日が一粒万倍日です。皆さんにとってラッキーなことがある日になるといいですね。

それでは、あと少し寒さに負けずに、元気についきっ子生活を送ってください。

これで校長先生の話が終わります。